

第83号
昭和54年
3月20日
発行

発行所
日本赤十字
新労働組合連合会
(日赤新労)
東京都港区虎の門3-24-7
(虎中ビル)
TEL 03-432-1089
発行責任者
佐藤一男

綱 領

1. 吾々は、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
2. 吾々は、常に暴力と独裁を排し、自由にして開明なる民主的労働組合としての健全なる発展を目指す。
3. 吾々は、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。

日赤新労

第18回定期大会開く



第18回定期大会会場風景

天城の山裾、狩野川の清流にのぞみ渡谷を彩る美しい景観は多くの文人墨客に愛され、川端康成の名作「伊豆の踊子」、井上靖の「しるはば」など、私達、日本人の心の郷愁を呼ぶものがまだに残るこの会場、国民宿舎「木太力荘」において、二月二十五日から二十七日の三日間にわたり、第18回定期大会が盛大に開催された。本大会には全国から参集した代表委員、オブザーバー及び本部役員、相談役等多数参加。開会宣言後、まず議長杉原康代(福岡支部)、副議長大向広治氏(八戸日赤)、書記佐賀克己氏(徳島日赤)の三氏を選出後議事に入り、過去一年間の新労働状況の報告、そして今後一年間の新労働方針を決定する多くの議題について、終始熱心に活発な討議を行ない、数多くの成果をおさめた。大会最終日には、力強い大会宣言が行われ、盛会裡に無事大会を終了した。本大会において決議された事項、及びその他の概況の通りである。

新年 度運動方針を決定

きびしい不況下の賃闘へ

● 日赤新労結成二十周年記念大会(昭和56年度予定)について
本部から来る二十周年記念大会には「新労働歌」を作曲・作詞したとの提案があり、全員賛成可決された。なお、その詞曲等については、広く組合員から今後約六カ月のうちに募集することになった。

● 役員改選について
昭和五十四年度の役員及び会計監査の改選が行われ、次のとおり選出された。

執行委員長 川出富治(名一赤)
副委員長 渡辺康彰(唐津日赤)
監査委員 渡辺康彰(唐津日赤)

● 相談役の委嘱について
組合規約第十五章五十六条により宮野政夫(新潟日赤)、青山圭一(岡山日赤)の両氏を相談役に委嘱した。

● スローガン(別掲)

54年度 予算は原案通りで 賃金闘争方針も具体的に

① 昭和54年度運動方針(案)について
新年度の運動方針(案)については、管理者の定年制の問題が提案されており、相当時間を要して慎重に討議が行なわれた。また、「特殊勤務手当の増額及び範囲の拡大」を「特殊勤務手当の定率化及び範囲の拡大」に修正し、次の三大スローガンを含めて原案通り可決された。

② 昭和54年度要求書(案)について
賃上げ要求は当面する経済情勢や社会情勢を考慮し、定率込み九・八%(一七・三〇〇円)と最低賃金を八〇、二〇〇円と



54年度賃上げについて 川出中央執行委員長あいさつ

一九七九年春闘は、三月から、労働界に春闘方式見直し論が一段と高まった。賃上げは、産業別組織で闘争し、制度、政策要求を労働中央組織で取り組もうとの姿勢を見せるもの、経営側と政府の対応は極めて厳しい。

一 地方選挙が重なるもの、更には沈滞化を続けた消費者物価指数が上昇することは、必至の情勢とあって、前途は極めて厳しい。

一 地方選挙が重なるもの、更には沈滞化を続けた消費者物価指数が上昇することは、必至の情勢とあって、前途は極めて厳しい。

一 地方選挙が重なるもの、更には沈滞化を続けた消費者物価指数が上昇することは、必至の情勢とあって、前途は極めて厳しい。

★ 54年度スローガン ★

◎ 物価上昇に見守る、我々の生活を合う賃上げを獲得しよう。

◎ 労働条件を改善しよう。

◎ 教育学習、実践活動を充実し、組織の拡大強化をはかろう。

◎ 労働条件を改善し、明るい職場をつくろう。



大会宣言の朗読

大会宣言

日赤新労は第18回定期大会を二月二十五日から二十七日日まで、静岡県田方郡天城湯ヶ島町湯ヶ島木太力荘で開催した。我々は昭和54年度運動方針として生活維持向上のための賃上げ、組織の拡大強化、明るい職場

作りのスローガンを掲げ組織の総力を結集し、新労の理念を基調とした、全組合員のゆるがざる団結のもとにたゆまざる行動により、より力強く前進することをちかいます。

右天城湯ヶ島大会宣言とする。

昭和54年2月27日
日赤新労
第18回定期大会

新役員のスロウアップ

会計 鈴木 稔

東洋のデトロイトといわれるという落着いたところの趣味も自動車、豊田市の郊外に住まいをかまえ、飲めば必ずオモチャの土産を買ってかえりたくなる程可愛い一歳と七歳になる男の子と、主人を絶対的に信頼するという、真に理解ある奥さんと、父母の六人の平和な暮らしてある。職場においては少なきびしいが、面倒見のいい上司のもとに業務係長として、月一八、〇〇〇本近くの採血計画の達成をまかせられ、毎日ほとんど休む間もない程の多忙の中に、単組の委員長も引受け、多くの組合員をよくまとめているリーダーでもある。

執行委員 渡辺 幸子

渡辺さんは昭和53年に初めて単組執行委員となり、今年はその職務に責任をもち、今年度は単組執行委員として大任をお引受け、その間、月一八、〇〇〇本近くの採血計画の達成をまかせられ、毎日ほとんど休む間もない程の多忙の中に、単組の委員長も引受け、多くの組合員をよくまとめているリーダーでもある。

執行委員 松本 晃

松本さんは昭和53年に初めて単組執行委員となり、今年度はその職務に責任をもち、今年度は単組執行委員として大任をお引受け、その間、月一八、〇〇〇本近くの採血計画の達成をまかせられ、毎日ほとんど休む間もない程の多忙の中に、単組の委員長も引受け、多くの組合員をよくまとめているリーダーでもある。

新役員への抱負

書記長・組織部長 佐藤 一男

新本部役員として、組合員皆様方のご指導ご支援を得ながら、過去七年間大過なく進んでまいりました。更に今後皆様方のご支援とご協力を得ながら新本部の発展のために力を尽くして参りたいと決心しております。

執行委員 野沢 リセ

野沢さんは昭和53年に初めて単組執行委員となり、今年度はその職務に責任をもち、今年度は単組執行委員として大任をお引受け、その間、月一八、〇〇〇本近くの採血計画の達成をまかせられ、毎日ほとんど休む間もない程の多忙の中に、単組の委員長も引受け、多くの組合員をよくまとめているリーダーでもある。

第18回大会役員構成

- ◎議事運営委員
 - 大屋賢治 (前橋赤)
 - 辻本潔爾 (大津赤)
 - 杉本莞爾 (前橋赤)
- ◎選挙管理委員
 - 早乙女正人 (石巻赤)
 - 阿久津頼之助 (大田赤)
 - 宮田金行 (岡山赤)
 - 宮尾照子 (今津赤)
 - 花田 (今津赤)
- ◎役員詮衡委員
 - 市ノ渡憲市 (盛岡赤)
 - 見留川忠利 (足利赤)
 - 荒谷幸洋 (大津赤)
 - 内仁 (大津赤)
- ◎宣言文起草委員
 - 鈴木島静 (愛知赤)
 - 松島 (愛知赤)

旧役員へのあいさつ

前副委員長 等々力 重信

昭和48年の第12回定期大会において、はからずも本部役員の一員として加えられたこと、六年の間には語りつくせない思い出が数多くある。今日まで六年間、陽になりながら支えて下さった中央役員初め、組合員の皆様方に深く感謝申し上げます。特に、第三ブロックの皆様方には常に色々の助言とご指導をいただき、いざ事ある時には必ず守って下さるであろうことを信じて、それを心の糧として今日まで務めてくることができました。ここに、あらためてお礼申し上げます。

前執行委員 野沢 リセ

このたび、昭和48年度から昭和53年度まで六年間にわたる本部役員を辞任することになりました。この六年、つがなぐり過ぎて、組合員皆様方の御指導、御協力によるものと深く感謝申し上げます。私にとりまして、この六年間は、一瞬のようにも、また水い年のようにも思われます。私ごとき者が本部役員、婦人部長に推されるなど、夢にも考えられなかつたことで御座います。今後の発展を祈りつつ、辞任のあいさつと致します。

労働界は今年も春闘シーズンを迎える。何れにしても、こうした情勢にありながら、依然として生活必需品を含めた消費物資は緩やかに上昇傾向にある。国民生活は物価高による要求水準を取り止め、同盟等なるなど、更に背景に雇用不安が内在している企業の強い人減らし減賃志向が働いており、雇用面からの賃上げ抑制圧力となっている。

54年度の新執行部

| | | | | | | | |
|---|----------------------------------|------|---|------------------------|------|---|------------------------|
|  | 中央執行委員長 川出 富治 (名古屋第一赤十字病院) | 会計 |  | 鈴木 稔 (愛知血液センター) | 会計監査 |  | 川崎 実二 (大津赤十字病院) |
|  | 副執行委員長 高橋 利行 (福島赤十字病院) | 執行委員 |  | 星野 馨 (茨城県赤十字血液センター) | 会計監査 |  | 渡辺 康喜 (唐津赤) |
|  | 副執行委員長 松本 晃 (鳥取赤) | 執行委員 |  | 伊東 照子 (名古屋第二赤十字病院) | 相談役 |  | 宮野 政夫 (新潟赤十字血液センター) |
|  | 書記長 佐藤 一男 (宮城県支部) | 執行委員 |  | 渡辺 幸子 (足利赤) | 相談役 |  | 青山 圭一 (岡山赤十字病院) |